

一九一一番

さにつらふ 妹を思ふと 霞立つ 春日もくれに  
恋ひ渡るかも

一九一二番

たまきはる 我が山の上に 立つ霞 立つとも  
居とも 君がまにまに

一九一三番

見渡せば 春日の野辺に 立つ霞 見まくの欲  
しき 君が姿か

一九一四番

恋ひつつも 今日暮らしつ 霞立つ 明日の  
春日を いかにも暮らさむ